

試験研究成果普及情報

| | | | |
|---|-----------------|-------------------|-------|
| 部門 | 資源管理・増養殖 | 対象 | 研究・普及 |
| 課題名：キンメダイ漁業における針数を用いた漁獲努力削減状況の見える化 | | | |
| <p>[要約] キンメダイ漁業者が長年行ってきた漁獲努力量の削減状況を、キンメダイ釣りに用いる釣り針数に置き換えて計算「見える化」することで、他地域の漁業活動との比較が可能となる。また、キンメダイ太平洋系群の資源評価において、これらの針数を指標とする手法を取り入れることで、精度の向上が期待できる。</p> | | | |
| フリーワード キンメダイ、釣り針数、漁獲努力量、見える化 | | | |
| 実施機関名 | 主 査 | 水産総合研究センター資源研究室 | |
| | 協力機関 | 水産研究・教育機構 水産資源研究所 | |
| 実施期間 | 2021 年度～2022 年度 | | |

[目的及び背景]

キンメダイ漁業では、漁業者による自主的な資源管理活動として、休漁日の設定、操業時間の短縮、使用する針数の制限などの漁獲努力量の削減を長期間にわたり取り組んできたが、各地域の資源管理の取組が異なることが地域間の客観的な比較を妨げている。

そこで、釣り漁業の特性を生かし、海中に投じた総釣り針数を漁獲努力量として算出することにより、その削減状況を数値として「見える化」する試みを行う。

[成果内容]

- 1 千葉県内のキンメダイ漁場である銚子沖、勝浦沖、東京湾口（布良瀬沖）の漁場ごとに 1 年間に投入した総針数を、漁業に用いる仕掛け 1 本あたりの針数、1 隻あたりの仕掛けの数、1 操業日あたりの仕掛けの投入回数ならびに年間延べ操業隻数を乗ずることにより漁場ごとに算出する。
- 3 漁場ごとの年間使用総針数は、銚子沖は 2021 年に約 200 万針、勝浦沖は 2020 年に約 855 万針、東京湾口は 2020 年に約 43 万針である。
- 4 これらの年間使用総針数を 3 地区の漁獲量が最も多かった年（銚子沖：2007 年、勝浦沖・東京湾口 2006 年）を 1 とした相対値で表すと、いずれの地区も総針数（漁獲努力量）は一貫して減少しており、銚子沖の 2021 年は 0.35、勝浦沖の 2020 年は 0.57、東京湾口の 2021 年は 0.22 といずれも 40% 以上減少している。
- 5 魚の釣れ具合を表す CPUE（単位漁獲努力量あたり漁獲量）として、キンメダイ漁業では「1 隻 1 日あたり漁獲量（もしくは尾数）」を用いているが、操業地区ごとに 1 隻 1 日の漁獲努力の価値が異なるため、比較を困難にしている。
- 6 今後、新たな CPUE の指標として「針数あたりの漁獲量（もしくは尾数）」を用いることで、資源評価の精度向上に寄与することが期待できる。

[留意事項] なし
 [普及対象地域] 銚子地域、外房地域、南房総地域
 [行政上の措置] なし
 [普及状況] なし
 [成果の概要]

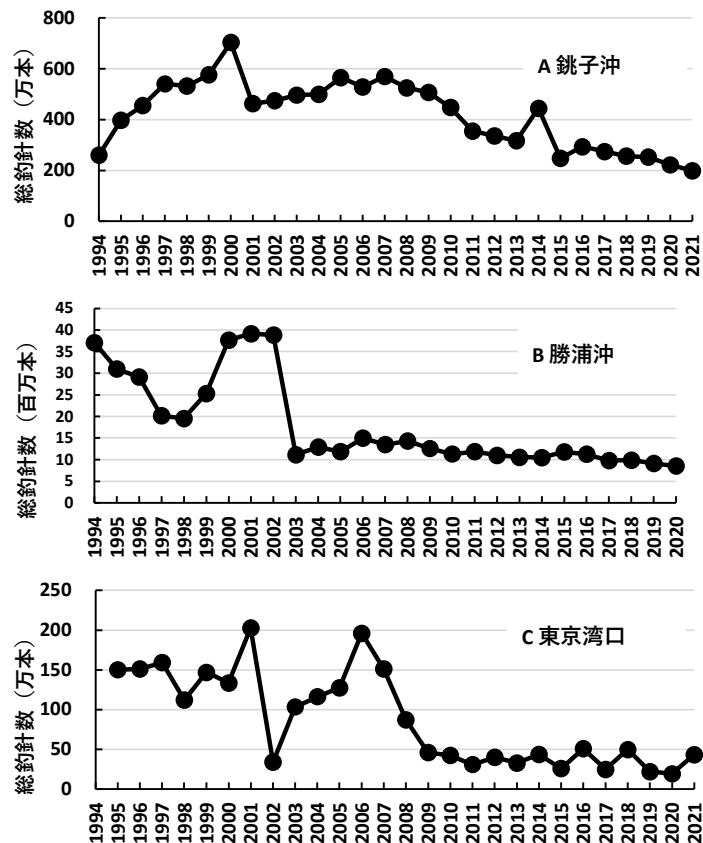


図1 1年間に使用した総針数の推移 (A: 銚子沖、B: 勝浦沖、C: 東京湾口)

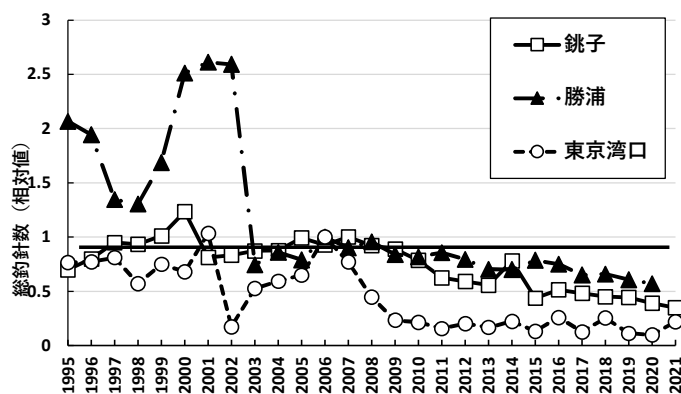


図2 1年間に使用した総針数の推移

銚子沖は2007年、勝浦沖および東京湾口は2006年を1とした相対値。

[発表及び関連文献]

千葉県沿岸域のキンメダイ漁業における針数を指標とした漁獲努力量とCPUEの推移、黒潮の資源海洋研究、第24号、2023年

[その他] なし